

河原院の旧跡きゆうせきは五條橋通万里小路まてのの東八町四方にあり。〔鴨川かもは此殿舎の庭中を流と見えたり〕此所このところは融とほるの左大臣の

別荘にして、台閣水石風流をつくし、遊蕩の美を擅にし、山を築ては草木繁茂し四時に花絶えず、池を鑿ては水を湛へ魚鳥は波に戯れ、陸奥の松島をうつし、難波津より日毎に潮を汲せ、管絃は仙台に調、文籍は月殿に翫び給ふ。大臣薨じ給ひて後、寛平くわんぺい法皇いはふわう此勝地に遊覽し、東六條院とうろくどうのあんと号す。其後そのち仏閣となし、融公ゆうこう第三の御子みこ祇陀だ林寺りんじの本主ほんしゆ仁康にんかう上人といふ知識をすゝめて、丈六の釈迦しゃか仏ぶつを作りて此院に安置し、これを河原院かはらのと号しける。〔今五條橋の南、鴨川かも高瀬川たかせの間に森あり、これを籬まがきの森もりといふ。河原院の遺跡なり〕

古 今 君まさで煙絶にし塩竈しほがまの浦うらさびしくも見え渡るかな 貫 之

続後拾 塩がまにいつかきにけん朝なぎに釣する舟は爰によらなん 業 平